

受験番号	
------	--

※記入しない※

【解答欄】

I.

I.

次の問いに答えよ。

- (1) 次のア, イは, それぞれある規則性をもった数の列である。
空欄①~⑧に適する数を入れよ。

ア 19, 38, 【 ① 】, 【 ② 】, 95, 【 ③ 】, 133, 【 ④ 】, ...

イ 1, 3, 【 ⑤ 】, 【 ⑥ 】, 15, 21, 28, 【 ⑦ 】, 【 ⑧ 】, ...

- (2) パリオリンピックの水泳競技をテレビ視聴した。女子200mバタフライで、各レーンにそのときに泳いでいる選手のスピードが掲示された。

ある選手のスピードが 1.6 m/s だったとき、
200mを、このスピードで泳ぎ切ることができた場合のタイムは何分何秒か。

- (3) 次のような変数 x, y のデータがある。

x	7	5	6	4	6	5	7	10	9	8
y	7	8	9	10	4	6	5	1	2	3

これについて、

- ① 散布図をかけ。最初のデータ($x=7, y=7$)を例に、●(黒丸)で示すこと。
② x, y の間に相関関係があるかどうかを調べ、解答欄の相関関係がない、正の相関関係がある、負の相関関係があるのいずれかを○で囲め。

- (4) $(-\frac{5}{9}) \times (-\frac{45}{52}) \div (-\frac{25}{39})$ を計算せよ。

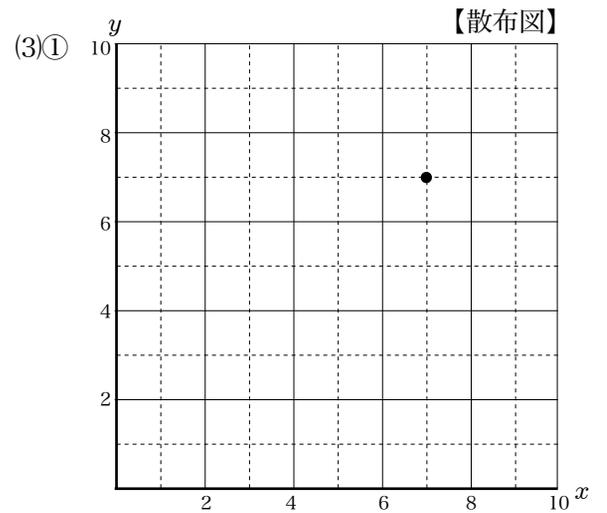
- (5) 次の二重根号をはずせ。なお、分母が無理数の場合、有理化すること。

$$\sqrt{6 - \sqrt{20}}$$

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

(2)

(1)	分	秒
-----	---	---



②	相関関係がない	正の相関関係がある	負の相関関係がある
---	---------	-----------	-----------

(4)

(5)

2.

① $(2x - 3y)(3x + 4y)$ を展開せよ。

② $(a + b + 5)(a + b + 2) + 2$ を因数分解せよ。

③ 方程式 $x^2 - \sqrt{3}x - 6 = 0$ を解け。

④ 2次方程式 $x^2 - mx + m = 0$ が異なる2つの実数解をもつとき、定数 m の値の範囲を求めよ。

⑤ 連立方程式 $\begin{cases} -x + 2y = -12 \\ 5x - 14y = 80 \end{cases}$ を解け。

3.

$U = \{n \mid 1 \leq n \leq 10, n \text{ は自然数}\}$ を全体集合とする。

U の部分集合 A, B について、

$A = \{3, 4, 6, 8\}, B = \{2, 3, 5, 6\}$ のとき

(1), (2) に示す集合を求めよ。なお、 \bar{A} は A の補集合を表す。

(1) $\bar{A} \cap \bar{B}$ (2) $(A \cap \bar{B}) \cup (\bar{A} \cap B)$

【解答欄】

2.

①

②

③ $x =$

④

⑤ $x =$, $y =$

3.

①

(1) $\{ \quad \quad \quad \}$

(2) $\{ \quad \quad \quad \}$

4.

$-4 \leq x \leq 0$ のとき、 $y = (x^2 + 4x)^2 + 6(x^2 + 4x) + 4$ の最小値と最大値を求めたい。点線枠の空欄ア～タに適する数式を右の【選択群】から選び、記入せよ。なお、同じ数式を何度使ってもよい。また、図⑤、⑧のグラフを完成させよ。

【解き方】

$$y = (x^2 + 4x)^2 + 6(x^2 + 4x) + 4 \quad \dots ①$$

$x^2 + 4x = t \dots ②$ とおくと、①は次のように表せる。

$$y = \boxed{\text{ア}} + 4 \quad \dots ③$$

$$\text{一方、 } t = x^2 + 4x = \left(x + \boxed{\text{イ}}\right)^2 - \boxed{\text{ウ}} \quad \dots ④$$

t を x の関数とみると、 $-4 \leq x \leq 0$ だから、グラフは【図⑤】のようになる。

$$\text{このグラフから、 } t \text{ の変域は } \boxed{\text{エ}} \leq t \leq \boxed{\text{オ}} \quad \dots ⑥$$

$$\text{③から } y = \boxed{\text{ア}} = \left(t + \boxed{\text{カ}}\right)^2 - 5 \quad \dots ⑦$$

⑥の変域における⑦のグラフは、右下の【図⑧】のようになる。

このとき、 y は

$t = \boxed{\text{キ}}$ のとき、最小値 $\boxed{\text{ク}}$ をとる。

$t = \boxed{\text{ケ}}$ のとき、最大値 $\boxed{\text{コ}}$ をとる。

したがって $t = \boxed{\text{キ}}$ のとき、②から

$$x^2 + 4x = \boxed{\text{サ}}$$

$$\text{これを解くと、 } x = \boxed{\text{シ}}, \boxed{\text{ス}} \quad \dots ⑨$$

また $t = \boxed{\text{ケ}}$ のとき、②から

$$x^2 + 4x = \boxed{\text{セ}}$$

$$\text{これを解くと、 } x = \boxed{\text{ソ}}, \boxed{\text{タ}} \quad \dots ⑩$$

$-4 \leq x \leq 0$ だから、これらは問題に適する。

以上から、

$x = \boxed{\text{シ}}, \boxed{\text{ス}}$ のとき、最小値 $\boxed{\text{ク}}$

$x = \boxed{\text{ソ}}, \boxed{\text{タ}}$ のとき、最大値 $\boxed{\text{コ}}$ をとる。

※ 【解答は点線枠ア～タに記入すること】

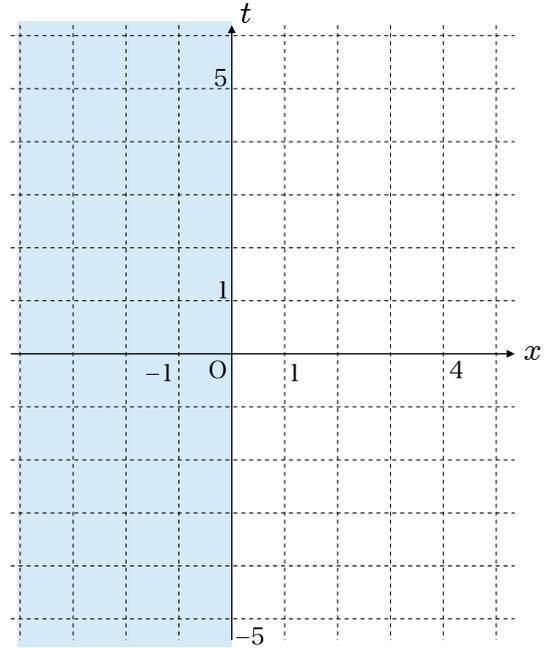
※ また図⑤、図⑧のグラフも完成させること。

【選択群】

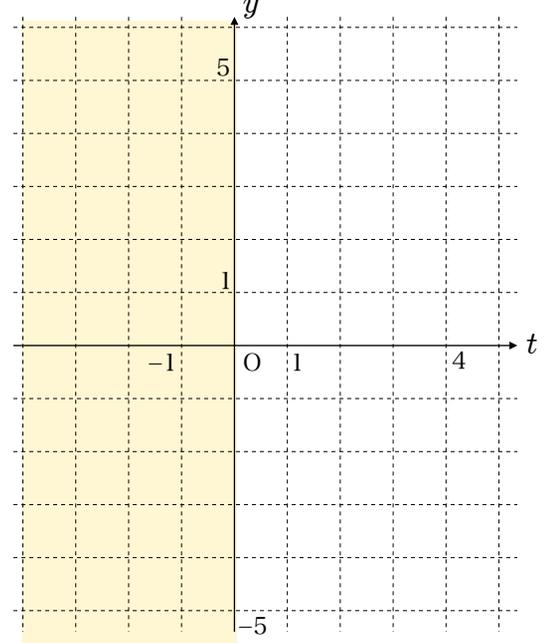
$-5, -4, -3, -1, 0, 1, 2,$

$3, 4, 5, t^2 + 6t + 4, t^2 + 6t$

【図⑤】



【図⑧】

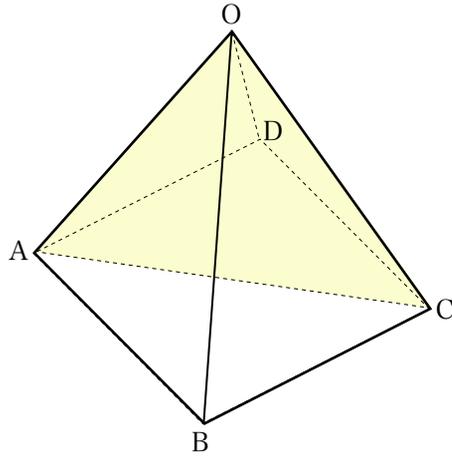


5.

右図は底面が1辺4の正方形,
 $OA=OB=OC=OD=4$ の正四角錐である。

(1)① $\angle OAC$ の大きさを求めよ。

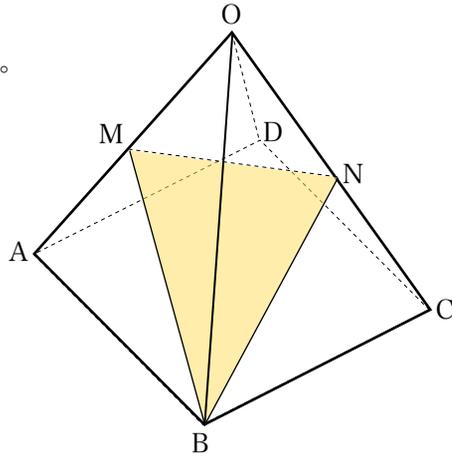
② $\triangle OAC$ の面積を求めよ。



(2) 辺OA, OCの中点をそれぞれM, Nとする。

① 線分MNの長さを求めよ。

② $\angle MBN = \theta$ とするとき,
 $\cos \theta$ の値を求めよ。



③ $\triangle BMN$ の面積を求めよ。

【解答欄】

5.

(1)

① $\angle OAC =$
② $\triangle OAC =$

(2)

① $MN =$
② $\cos \theta =$
③ $\triangle BMN =$

2025年度 第43期生 前期入学試験問題

(国語)

泉州看護専門学校

一 次の文章を読んで以下の問いに答えなさい。

【池井戸潤「俺たちの箱根駅伝」より】

雰囲気は、どこかきこちなかった。

十二月二十四日から四泊五日のスケジュールで始まった学生連合チーム、最後の合宿だ。最終調整の場であるはずだが、四日目となるこの日は何かが違っていた。

質量の大きな何かがチームメイトたちへのしかり、どこかにあったはずの自信も余裕も、箱根駅伝という魔法の力で消し去られてしまったかのようだ。

実は、これにはきっかけがある。

昨日の晩、大日テレビが放送した箱根駅伝の特別番組を、チーム全員がラウンジで観ていた。

そこで平川庄介監督率いる東西大学チームの出陣式の様子が紹介されたのだ。

百名を超える選手を抱える大所帯。そして、過去に何度も箱根駅伝を制した名門チームには、それに^①相応しいタスキが存在する。

その番組の中で、部員たちやOB、関係者の前でうやうやしく掲げられた東西大学伝統のタスキは、まぶしいまでに輝き、見るからに重みがあった。

「なんか、すげえな」

いつもは陽気な丈が、気圧された表情を浮かべていた。

ひとつのチームとしての伝統と経験。その中を連続と受け継がれ、幾度もの総合優勝を経てきた栄光のタスキ――。

それは、この学生連合チームには存在しないものである。

どう努力しても、絶対に手に入らないものだ。

掲げられたタスキの前で東西大学の選手たちが感極まり、涙し、必勝を誓う。その様は、それだけで学生連合チームを畏怖^②させ、委縮させるに十分であった。

格の違いをまざまざと見せつけられた気がする。

東西大の勝利への執念は、勝たなければならない宿命にも似て、強靱な精神世界を形成している。他の競合するチームも同じだろう。

それにひきかえ――。

「俺ら、なんもないなあ」

弾が、いつもの関西弁でいった。少々冗談めかしたように聞こえるが、笑う者はいない。

笑いの代わりに鉛を呑んだような沈黙が狭まり、底の見えない不安の風が、ボールのようにチームの上に落ちてきたのである。

そしていま――。

隼斗はちらりと、グラウンドで練習を見つめる甲斐の方を見やった。

甲斐は、チーム内に起きているこの化学反応をどう思っているだろうか。いや、そもそも気づいているだろうか。

――メンタルが七割。

先日、甲斐がいった言葉が真実なら、戦う前から気後れしているこのチームはすでに負けたも同然だ。

「今日、十八時からミーティングやります。予定にはありませんが、全員必ず出てください。外に走りに入る方も必ず戻るようにしてください」

そんなことを計図が全員に告げたのは、昼の食事のことである。

セミナールームに行くと、計図がすでに来て待っていた。

「計図さん、ついに区間エントリー、発表するんすか」

不安そうに弾が尋ねたが、「どうなのかな」と計図は首を傾げてみせる。

弾は隼斗にも問うような眼差しを向けてきたが、実は隼斗にもわからなかった。

通常であればミーティング内容について甲斐から事前に知らされるところだが、これについては事前の説明を受けていない。

「本選の作戦とか、そういうことについてのレクチャーじゃないかな」

隼斗はいった。合宿はまだ一日残っているからだ。実際、甲斐は他校の選手の競技データをはじめ様々な情報を収集している。計図がリサーチャーとなって集めた情報は、誰がどの区間走者になるか、どんな走り方をするのかといった、具体的な戦略を決める要素になる

はずだ。

「別に怖じ気づくとかじゃないですけど、本選に出ることに違和感、ありませんか」
圭介が胸中の思いを口にした。

何人かがうなづく。

「昨日の番組とかさ、見なきゃよかったよな」と拓。

「いや、見て正解だったんじゃない」

異論を口にしたのは、浩太だ。「もし見てなかったら、あの連中のノリを現場で知ることになる。たまったもんじゃないよ。圧倒されて心の準備もできないまま走ったらどうなる」

「負けるよな、そりゃ」

周人が自虐的にいった。「総合三位以上どころじゃない。いい笑いもんだ」

誰もが青ざめ、押し黙った。

隼斗が腕組みして目を閉じたとき、セミナールームのドアが開く音がした。

入室した甲斐は全員の集合を確認し、

「じゃあ行こう」

そうひと言告げ、部屋を出て行く。

「行くなって、どこへ？ ミーティングは？」

弾がきよんととして周りを見たが、知る者は誰もいない。

「移動、お願いします」

計図が声を上げ、怪訝な表情を浮かべたまま、チーム全員が甲斐の後を追って部屋の外に出た。

セミナールームのある東邦経済大学寮の一階から、連絡通路に出る。甲斐はその連絡通路を、足早にどんどん進んでいった。

冬休みに入った、午後六時過ぎだ。

体育館への連絡通路は屋根だけで、十二月の寒風が真横から吹き付けてくる。あたりは暗く、さっきまで隼斗たちが練習していたグラ

ウンドはとうに消灯され、常夜灯だけがぼつぼつと点灯していた。

グラウンドを囲むネットの向こう、空の低いところに細い月が浮かんでいる。

いまの学生連合チームを体現しているような、頼りなげで、どこか淋しげな月だ。

通路の突き当たりに、すでに消灯された体育館が見えた。

あたりは静かで、電車のレールを打つ音が遠くから聞こえてくる。体育館の入り口の前まで来たとき、一瞬立ち止まり、甲斐が振り

返った。

そのままドアを引き開け、中に入って行く。隼斗たちもそれに続いた。

「真っ暗じゃん」

背後で誰かがいうのを、隼斗は聞いた。

だが、

「電気ぐらい——」

その後の言葉は、聞き取ることができなかった。

突如、^④皎々たる明かりが点灯したかと思うや、空気を割らんばかりの大歓声が、上がったからである。

——まさか！

言葉をなくし、隼斗はその場で立ち尽くした。

隼斗だけではない、チームの誰もが啞然とし、棒杭のように立ち尽くし、或いは呆けたように口をぽかんと開けたまま動けなくなって

いる。

信じられなかった。

いったい、いつの間に——。

館内を埋めていたのは、大勢の学生たちだった。学生連合チームに選手を出している十六大学の陸上競技部の部員たちだ。

甲斐の仕組んだサプライズだと悟ったときには、全員が感動と驚きで言葉を失っていた。

「——隼斗、隼斗！」

声を張り上げているのは、明誠学院大学の仲間たちだ。

海が割れるように人垣が開き、花道が出来た。

「みんな、行こう！」

兵吾が声を掛けた。

「行くぞ、みんな」

隼斗も声を掛け、甲斐の後に続いて人垣の中を進んでいく。

こんなことがあるのか。

夢ではないのか。

兵吾に言われるまま、ひな壇に整列した隼斗たちは、いま自分たちを見つめる大応援団を前にしていた。スタンドマイクの前に甲斐が立つと、歓声と拍手で盛り上がりつついた体育館がすっと息を潜めるように静まり返った。

「ここにいる全員が、ひとつのチームだ」

甲斐の第一声に、さざ波のような拍手が応える。

「学生連合チームは決して寄せ集めの集団ではない」

甲斐は続けた。「ここにいるみんなの思いを背負い、大切な人のために走る。いままで一緒に練習し、努力し、信じてきたことのために戦う、ひとつのチームなんだ」

甲斐の言葉は、まるで隼斗の胸に突き刺さるかのようだった。甲斐は続ける。

「たしかに、このチームに伝統の重みはないかも知れない。経験もないだろう。しかし、箱根に対するこれだけ大勢の思いがある。関東学生連合は、箱根駅伝の本選を走るすべてのチームの中で、最大のチームだ。ここに集まってくれた皆の思いが、ひとつのタスキに宿る。ここにいる全員が同じチームの仲間だ。みんなの思いをひとつにして、箱根駅伝の本選に臨みたい」

入り口のドアが開き、大沼コーチが入ってきた。

両手に捧げ持っているのは、白地に赤の学生連合チームのタスキである。

そのタスキが待ち受けていた兵吾に手渡され、兵吾からその場にいる参加者に回された。

いま館内を埋めた仲間たちが整列し、その手から手へタスキがつながっていく様を、隼斗は眺めていた。

それはまるで、神聖な儀式のように見える。

すすり泣くような声、ときに拍手、ときに「頑張れ！」という気合い、様々な思いを込められたタスキがやがて、ひな壇に並ぶ十六人の選手の前までつながり運ばれてくる。

「隼斗。キャプテンからひと言」

甲斐に促され、隼斗はマイクの前に立った。

「このチームにはずっとアゲンストの風が吹いていました。ぼくたちは、それと必死で戦ってきたんです。だけど、今日初めてわかったことがあります。ぼくたちにはこんなにも大勢の仲間がいた。皆のためにも、絶対に恥ずかしい戦いはたくありません。伝統も経験もないかも知れませんが、ぼくたちはもう怖じ気づくことも、気後れすることもありません。全力を尽くして——」

思いがこみ上げ、最後は声が震えた。

ふいに涙がこぼれ、握り締めているタスキにしみこんでいく。いま手にしているタスキに、ここにいる全員の思いや祈りが込められている。なんて重いんだろう。なんて尊いんだろう。

そのことがひしひしと伝わってくる。

「隼斗、頑張れ！」

誰かが声を掛けてくれた。

「——全力を尽くして戦ってきます。ここにいるみんなのために」

隼斗は声を絞り出した。「だから——だから、ぼくたちのことを応援してください。よろしく願います！」

大きな拍手が、頭を下げた隼斗を包み込んだ。

何かが起きる。

そんな予感とともに、熱気は最高潮に達しようとしている。

伝統もなく、経験もない。

——だからなんだ。

このとき、隼斗ははじめて心からそう思った。俺たちは戦える——そう信じられた。

隼斗から、隣にいた浩太にタスキが渡され、浩太から拓へ、拓から天馬へ。ひとりずつ、マイクの前に立ち、熱い思いを口にしていく。そのたび、チームメイトから激励が飛び、セレモニーは、最後のときを迎えようとしていた。

「それでは、区間エントリを発表する」

ふたたびマイクの前に立った甲斐のひと言に、会場が静まり返った。

夢見心地で高揚していた気持ちだが、一気に現実を引き戻されたかのようだ。

「一区、諫山天馬」

意中の一区に指名され、天馬が小さくガッツポーズし、歓声が上がった。品川工業大学のチームメイトたちだろう。

「二区、村井大地」

やはり、大地か。

いま闘志を燃やす目で、大地が握り締めた右手を軽く挙げてみせた。このチームのエースとしての自覚が漲っている。

「三区、富岡周人」

素浪人。風の周人が、一步前に進み出て頭を下げた。

「四区——」

自分の名前が呼ばれるはずだ——そう信じて、隼斗はまっすぐ前を見据える。だが、

「——内藤星也」
思いは外れ、微かな落胆を隼斗は感じた。先月、計図とふたり、四区を歩いたときのことが脳裏を過っていく。その計図がちらりと隼斗に視線を向けた。気の毒そうな、そして何か言いたげな視線だ。どうあれ、四区にエントリーされたのは、星也であり隼斗ではない。「頑張り。星也」

悔しさを心の奥底に押し込み、隼斗は星也にいった。返ってきたのは、「どうも」、という相変わらずクールな反応だ。

甲斐の発表は続く。

「五区、倉科弾」

名前が呼ばれた瞬間、聴衆の一隅からものすごい歓声が上がった。山王大学ははまだ箱根駅伝の本選に出場したことがない。本選に出るのは、弾が初めてなのだ。だが、底なしのスタミナの持ち主である弾こそ、五区の上りに選ばれるに相応しいと、誰もが認めているはずだ。

「ここまで往路。続いて復路」

ひと呼吸置いて、甲斐は続ける。「六区、猪又丈」

これも予想通りで、誰もが納得したに違いない。

この辺りから、^(三)隼斗は胸の奥にわさわさとした落ち着かないものを感じていた。

重なったのは、予選会の記憶だ。

明誠学院大学の名前が呼ばれることをひたすら待ちながら、ついにはかなわなかった悪夢——。

呼ばれるとすれば、もうひとつの区間候補である十区しかない。

「七区、桃山遥」

やったぞ、という声はどこかで上がった。東洋商科大のチームメイトたちだろう。だが、遥の走力を考えれば、選ばれるのは当然だ。

「八区、乃木圭介」

京成大のジャージを着た集団が、万歳を叫んだ。圭介は笑顔で前に進み出、「全力で走ります」という言葉とともに腰を折る。

「九区——」

甲斐が新たな名を呼んだ。「松木浩太」

歓声が上がった。抱き合って喜んでいる者もいる。清和国际大学のチームメイトたちだ。隼斗が胸を打たれたのは、彼らがおそらくは北野には内緒でこの場に来ているだろうことがわかってからだ。

裏エース区間の九区はたしかに、浩太の走力に相応しい。浩太は無言のまま、ぐつと唇を噛んでお辞儀をし、拳を握り締めていた。

そして、残すところ、あとひとり。

隼斗は、壇上からまっすぐに体育館のただっ広い空間を睨み付けた。

「十区——」

自分しかない。そう信じようとしたとたん、脳裏をまた、あの予選会の光景が過った。

明誠学院大学の名前が呼ばれることをチーム全員で祈ったあの光景だ。

「アンカーを務めるのは、やっぱりこの男だ」

甲斐はひと言付け加えて、名前を発表した。「——キャプテン、青葉隼斗」

館内から大歓声があがり、隼斗は天井を仰ぎ、静かに瞑目した。

腹の底から武者震いするほどの興奮がこみ上げてくる。

隼斗の前に、箱根駅伝本線——夢の舞台への門が、いま開かれたのだ。

【設問】

問一 傍線①～⑤の漢字をひらがなで記しなさい。

問二 二重傍線(イ)「質量の大きな何か」がチームメイトたちにのしかかり、どこかにあったはずの自信も余裕も、箱根駅伝という魔法の力で消し去られてしまったかのようだ。」とありますが、それはどうしてですか。

問三 二重傍線(ロ)「怪訝な表情を浮かべたまま、チーム全員が甲斐の後を追って部屋の外に出た。」とありますが、それはどうしてですか。

問四 二重傍線(ハ)「だからなんだ。」という隼斗の言葉から隼斗のどのような気持ちを読み取れますか。

問五 二重傍線(ニ)「隼斗は胸の奥にわさわさとした落ち着かないものを感じていた。」とありますが、それは隼斗のどんな気持ちを表していますか。

【二】次の文章を読んで以下の問いに答えなさい。

【森 英樹「新版 主権者はきみだ」より】

①「まだ中学生だったころ、毎日の宿題にうるさい先生が「ちゃんとやれば、塵も積もれば山となる」と力んでおっしゃった。そのとき悪ガキが「山となっても塵ばかり」とやじをとばしたため、教室は爆笑。この先生、うつつまっしてしどろもどろ。気をとりなおしてこの生徒をこっぴどくしかり、なぜかチリとりをもたせて廊下に立つように命じた。立たされた悪ガキとは、何をかくそうこの私であったが、いまだに②「ナットク」できない罰である。

チリとりでゴミを集めれば捨てる。いまでは「燃えるゴミ」と「燃えないゴミ」とを分別する。だが、正しくは「燃やすゴミ」と「燃やさないゴミ」だろう。たいていのゴミは燃やそうと思えば燃える。燃焼時に発生するガスが危険だから、燃やさないだけ。

③「ものが燃えれば炭酸ガスが出る」。地球を包む大気は大部分が窒素で、炭酸ガスは〇・〇三％にすぎない。ところが爆発的なエネルギー消費などで、これがぐんぐん増えている。このままなら二一世紀中葉には倍になるといふ。これにフロンガスの増大なども加わって、地球の温度が上昇してきた。ほうっておくと二〇三〇年には地球の温度が三度ほど上がるという。日常生活だと三度くらいの温度差はどうってことはないが、地球規模だと、たとえば海面は最高一四〇センチも上がるらしい。日本でもかなりの地域が水没するだろう。

④「大気が生物の生息に最適な絶妙のバランスであったのを壊しはじめたのは、産業革命以後のことである。地球が誕生したときには、火星や金星のように炭酸ガスでおおわれていた。それが、生物の誕生とその生命作用で、炭酸ガスを吸収し固体化して、大気環境をととのえ、人類が生まれるまでになった。この間ざつと五〇億年。その環境を人類は、石炭・石油の燃焼でくずしはじめ、ここ三〇年ほどで一気にこわそうとしている。石油を大量に燃やすエネルギーで大量にものを作り、出てくる大量のゴミも燃やして処分する、という方法は、したがって根本的に考え直さなければならない。

⑤「こうした「地球温暖化」をはじめ、地球が病んでいる⑥「シヨウレイ」は多い。消える森林、オゾン層の⑦「ハカイ」、海の汚染と陸の砂漠化、生物多様性の危機、超異常気象、などなど。一九九二年の地球サミットを契機に、多くの国際会議と条約で環境保全への努力が重ねられている。

⑧「ということ、最近では「環境にやさしい」が消費生活のキーワードである。「ちきゅうにやさしい」と書かれた「エコマーク」商品もふえてきた。人の手が地球をやさしく抱いたマークで、よく見るとeの形になっている。環境 (environment) と地球 (earth) の頭文字だが、エコロジーにも通じるだろう。財団法人日本環境協会が事務局となり、消費生活運動に⑨「シントウ」してきた。事務局に申し込んで認定を受けるとこのマークがつく。再生紙を使った本、一〇〇％古紙でできたトイレット・ペーパーや文具、回収・再利用するリターナブルびん、水質保全のための石鹸など、二〇〇〇以上の商品が認定を受けた。

⑩「環境にやさしい」というコピーのルーツはドイツである。一九七八年から政府が支援して「環境保護マーク」をつける運動が始まった。そのシンボル・コピーが「環境にフロイントリッヒ (freundlich)」。⑪「フロイントリッヒ」は英語で言えば「フレンドリー」。ということは「環境にたいして友だちのようにやさしく」というニュアンスがある。

⑫「仲のよい友人には、だれでもやさしくする。子どもや生徒にはなく、友人にたいしてだから、こちらが一段上において保護するのではない。同等の友人と苦楽をともにするなかで、やさしくする。環境や地球に「やさしい」ということが、gently、tenderly、kindlyではなくfriendlyだとすることは、だからけつこう意味深い。

⑬「環境保護を訴えるドイツのレポートを読んでいたら、「人間は環境を傷つけずには生きてゆけない」という⑭「シゲキテキ」な一文が目についた。考えてみれば、木を切らなければ材木はできないし、植物をとらなければ食物はとれない。穀物・家畜を育てるにも肥料や飼料が必要で、土壌の成分を消費していく。あるがままの環境はこうして傷つく。

⑮「人間だけが自然を変えられることができるし変えてきた。これを「発展 (development)」とよんできたが、発展とは開発 (development) のことでもある。あるがままの環境があるがままにはしておかない。だからこそ、傷つけた環境が自然治癒できる範囲でしか、人間は「発展」も「開発」もしてはいけない。地球は人間のものではなく、人間が地球の一部にすぎないのである。「持続可能な発展 (または開発)」とはそういうことである。

⑯「ゴミが燃えるか燃えないかは自然現象だが、燃やすか燃やさないかは人間の問題、政治の問題。憲法第二五条が国民の権利とした「健康で文化的な生活」とは、友人となるべき人間と環境が「健康」であるための生活「文化」のことでもある。それは日常生活からでもできる憲法の実現。環境破壊商品を買わないことからはじめたい。

⑰「塵も積もれば山となる」とは、先生の言ったとおり「ささいなことでもちゃんとすれば成果がでる」という教えである。だが、ひとりくらいいいだろうとゴミをだすと、それが山となって人間を襲いはしめている。「山となっても塵ばかり」はただのジョークではなくなってきた。いまなら私も立たされずにすんだらう。

【設問】

- 問一 ①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。
- 問二 傍線(ア)～(オ)の漢字をひらがなで記しなさい。
- 問三 二重傍線①～③の指示語は、何を指しているのでしょうか。
- 問四 波線~~~~①～③の品詞を書きなさい。
- 問五 炭酸ガスがぐんぐん増え始めたのは、いつからですか。
- 問六 炭酸ガスが増え続けると地球はどうなりますか。
- 問七 「環境にやさしい」という言葉は、どこから始まりましたか。
- 問八 「人間は環境を傷つけずには生きてゆけない」のならば、人間はどうしなければいけないのでしょうか。
- 問九 筆者は地球環境問題を憲法25条の問題だと述べていますが、それはどうしてですか。

【三】 次の問いに答えなさい。

【設問】

- 問一 次の作家の作品を後から選んで番号を書きなさい。
- | | | | |
|------------|------------|-------------|------------|
| A 夏目漱石 () | B 宮沢賢治 () | C 高村光太郎 () | D 森鷗外 () |
| E 川端康成 () | F 太宰治 () | G 芥川龍之介 () | H 志賀直哉 () |
- ① 暗夜行路 ② 風の又三郎 ③ 雪国 ④ トロッコ ⑤ 人間失格
- ⑥ 吾輩は猫である ⑦ 一握の砂 ⑧ 鷹 ⑨ 夜明け前 ⑩ 智恵子抄
- 問二 それぞれの文に当てはまる同音異義語を選んで、その記号を書きなさい。
- | | |
|---|----------------------------|
| A | ① 不祥事の責任を徹底的に () する。 |
| | ② 学問とは真理の () である。 |
| | ③ 納得できる成果を () する。 |
| | (a 追求 b 追究 c 追及) |
| B | ① 両者の意見は () 線をたどっている。 |
| | ② 体操選手は () 感覚が必要である。 |
| | ③ 君のわがままには () する。 |
| | (a 平衡 b 閉口 c 平行) |
| C | ① 動物が () な行動をとる。 |
| | ② 子どもの様子に () はなかった。 |
| | ③ 私のスピーチは () で終わります。 |
| | (a 異状 b 異常 c 以上) |
- 問三 次の言葉の対義語を書きなさい。
- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ① 一般 | ② 雑然 | ③ 主観 | ④ 依存 | ⑤ 欠乏 |
|------|------|------|------|------|
- 問四 □の中には同じ漢字が入ります。あてはまる漢字を () から選んで、四字熟語を完成させなさい。
- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| ① □作□演 | ② □味□臭 | ③ □筆□文 | ④ 以□伝□ | ⑤ □身□靈 |
| ⑥ □老□死 | ⑦ □材□所 | ⑧ □種□様 | ⑨ □真□銘 | ⑩ □三□四 |
- (最 夢 多 神 自 他 府 敵 無 心 不 適 正 乱 次 再 全 蘭 善 昭)